

TEZZOブランドでのパーツ開発現場において、ここ最近もコンスタントにフェラーリに触れていますが、僕にとって「記憶に残るフェラーリ」といえば、もうすぐ内外装およびエンジンのリフレッシュ作業が終わるシルバーのディーノ246gtです。ル・マンなどでF40 GTEというコンペティションモデルをドライブしていたので、F40も思い入れがあり記憶に残っていますが、やはり、縁あって購入できた自身のディーノがとても印象深い存在となっています。

今はもう閉館してしまいましたが、フェラーリ美術館に展示されていたシルバーのディーノを館長の松田さんから譲り受けたのは1997年のことでした。このクルマは「大きな古時計」の訳などで知られる作家の故・保富康平氏が所有していた車両で、フェラーリ美術館に寄贈されたものです。

1990年代の中頃、僕はフェラーリを駆ってレースをしていたので、フェラーリ美術館の館長であり、また世界的なコレクターとしても知られた松田さんとお会いする機会が多々ありました。ある

日、松田さんから「太田選手はどんなフェラーリが欲しいですか?」と聞かれ、「ディーノが欲しいです」と答えました。それをきっかけとして展示車を譲ってもらえることになりましたが、数あるフェラーリの中でディーノを選んだのにはもちろん理由がありました。

グループCカーよりも加速性能がいいF40 GTIのようなフェラーリに乗って戦うということは、エンツォ・フェラーリに背中を押され「思い切り行ってこい」と励まされているようなもので、ドライバーはマシンの一部と化し、レースで勝つことにこだわったエンツォの情熱やフェラーリの血統のようなものを強く意識しながらサーキットを走るわけです。そのようなことを実践する日々の中で、エンツォに対して尊敬の念を抱き、徐々にフェラーリが欲しいと思うようになりましたが、私的な時間

## 日本一のフェラーリ遣いが選んだ、白銀の“大きな古時計”

65周年前夜——  
記憶に残る



33 Immortales Ferrari during 65 years  
フェラーリ10台



02

# Dino 246gt

に乗るフェラーリまで“戦うクルマ”にする気はあ  
りませんでした。

フェラーリというのは、見た目だけでなく乗り味  
もシャープで、例えばシフトチェンジひとつをとっ  
てみてもタイミングが非常に重要になるようなシ  
ビアなクルマです。これはフェラーリというクルマ  
の“乗る者に対して厳しい”部分や“エンツォの冷  
徹さ”が集約されたかのようなコンペティション  
モデルだけでなく、ロードゴーイングカーについて  
も同じことがいえます。しかし、購入前にも何度か  
試乗する機会を得ていたディーノは違いました。  
フェラーリならではのシャープさが少しマイルドと  
なった。乗ると心を落ち着かせることができるコン  
ペティションスポーツカーだったのです。そして、フェラー  
リ社の歴史やエンツォのことをいろいろ調べていく  
過程で、ディーノという一台のクルマとエンツォの

愛息アルフレードとのかかわりを知り、ディーノの  
“乗る者に対する独特の優しさ”は、もしかしたら  
エンツォの父親としての優しさがそのまま表現さ  
れたものなのかもしれないと思うようになりました。  
こうしてクルマを運転した時の印象とクルマの  
歴史から受ける印象が見事に一致したこと  
もあり、自分でフェラーリを所有するならば、造っ  
た人達の想いも楽しめるディーノにしようと思っ  
たわけです。

1997年に譲り受けたディーノですが、翌年の5月  
3日に僕が運転するF355GTがレース中に発生し  
たアクシデントに巻き込まれ、その後、長い療養生  
活を余儀なくされました。僕が入院しているあい  
だに主を失ったディーノはコンディションを落として  
しまい、当時のマネージャーが預かってくれると  
ころを探しました。あちらこちらを転々とした結

果、最終的に三郷市にあるラン・アンド・ランで預  
かってもらえることになったのですが、そのことを  
僕が知ったのは2000年がもうすぐ終わるという  
頃でした。事故から丸3年が過ぎた2001年5月7日  
に久しぶりにディーノと対面し、その後、作業途中  
の愛車にも何度か会いましたが、アクシデント後  
の対面からちょうど10年と半月が経った2011年11  
月7日にふたたび三郷市まで行ってきました。

ボディカラーをレッドやイエローにしようかと  
思ったこともありましたが、かつてフェラーリ美術  
館で見たことがある方が多い車種ですので、オリジ  
ナルのシルバーで仕上げました。本当に少しの期間  
しか乗れず、その後離れていた時間が長かったこと  
もあり、いまだに手元に戻ってきていませんが、す  
べての作業が完了したら、乗れなかった時間を取り  
戻すかのように、たくさん推したいと思っています。



#### Own Car

古い車の修理は自分の所有  
のディーノF355GTに2021  
年秋の修理が完了し、埼玉県三  
郷市にある板金塗装のスペ  
シャルショップ「コン・ア・ボ  
ラン」が修理が丁寧でレスト  
アしている。ボディカラーはシ  
ルバーとなり、色が塗られたの  
は驚きのこととなる。

